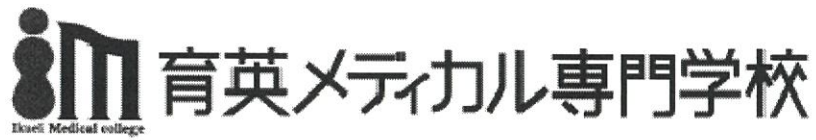


令和 6 年度



柔道整復学科 2 年

講義要項 (シラバス)

講義科目名	柔道整復学Ⅴ	分野区分	専門分野
担当教員名	黒岩 靖史	講義回数	40回
履修学年	第2学年	履修期間	通年
講義内容	<p>授業形態は講義形式とする。</p> <p>柔道整復学各論の (1)頭部・顔面部の損傷 (2)頸部・体幹部の損傷 (3)鎖骨部の損傷 (4)肩関節部の損傷 (5)上腕部の損傷 についての講義を行う。</p> <p>1年次に履修した柔道整復学総論を基礎として柔道整復師にとって必要となる重要事項を理解することを目標とする。 また、本範囲の各論を学んでいく上で重要となる肩関節部および頭部・体幹部の解剖と機能についても講義を行い、より理解が深まるように努める予定である。</p>		
評価	<p>期末試験の得点が各期末の評価となる。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考	<p>参考資料を配布するためしっかりとファイリングすること。</p>		
参考書等	<p>参考資料等を配布する。</p> <p>全国柔道整復学校協会監修:柔道整復学(理論編)[南江堂] 全国柔道整復学校協会監修:柔道整復学(実技編)[南江堂] 全国柔道整復学校協会監修:包帯固定学[南江堂]</p>		

第2学年 科目(柔道整復学V)

担当(黒岩 靖史)

週	編	節	時数	日付(I部)	日付(II部)	内容
前期	各論	肩関節部の損傷	1	4月8日	4月10日	肩関節の解剖と機能
		肩関節部の損傷	2	4月15日	4月17日	肩関節の解剖と機能
		肩関節部の損傷	3	4月22日	4月24日	肩関節脱臼
		肩関節部の損傷	4	5月13日	5月8日	肩関節脱臼
		肩関節部の損傷	5	5月20日	5月15日	肩関節脱臼
		肩関節部の損傷	6	5月27日	5月22日	肩関節脱臼
		肩関節部の損傷	7	6月3日	5月29日	肩関節脱臼
		鎖骨部の損傷	8	6月10日	6月5日	鎖骨の脱臼
		鎖骨部の損傷	9	6月17日	6月12日	鎖骨の脱臼
		鎖骨部の損傷	10	6月24日	6月19日	鎖骨骨折
		鎖骨部の損傷	11	7月1日	6月26日	鎖骨骨折
		胸部の損傷	12	7月8日	7月3日	肋骨骨折
		胸部の損傷	13	7月15日	7月10日	胸骨骨折
		胸部の損傷	14	7月22日	7月17日	胸部の軟部組織損傷
		肩関節部の損傷	15	7月29日	7月24日	肩甲骨骨折
		肩関節部の損傷	16	8月5日	7月31日	肩部および上腕部の軟部組織損傷
		肩関節部の損傷	17	8月19日	8月21日	肩部および上腕部の軟部組織損傷
後期	各論	前期末試験	18	8月26日	8月28日	前期末試験
		解答・解説	19	9月2日	9月4日	解答・解説
後期	各論	肩関節部の損傷	20	9月9日	9月11日	肩部および上腕部の軟部組織損傷
		肩関節部の損傷	21	9月23日	9月25日	肩部および上腕部の軟部組織損傷
		肩関節部の損傷	22	9月30日	10月2日	肩部および上腕部の軟部組織損傷
		肩関節部の損傷	23	10月7日	10月9日	肩部および上腕部の軟部組織損傷
		肩関節部の損傷	24	10月21日	10月16日	上腕骨近位端部骨折
		肩関節部の損傷	25	10月28日	10月23日	上腕骨近位端部骨折
		肩関節部の損傷	26	11月4日	10月30日	上腕骨近位端部骨折
		肩関節部の損傷	27	11月11日	11月6日	上腕骨近位端部骨折
		上腕部の損傷	28	11月18日	11月20日	上腕骨骨幹部骨折
		上腕部の損傷	29	11月25日	11月27日	上腕骨骨幹部骨折
		頭部・顔面部の損傷	30	12月2日	12月4日	頭蓋骨の骨折
		頭部・顔面部の損傷	31	12月9日	12月11日	頭蓋骨の骨折
		頭部・顔面部の損傷	32	12月16日	12月18日	顎関節脱臼
		頭部・顔面部の損傷	33	1月6日	1月8日	頭部・顔面部の軟部組織損傷
		頸部・体幹部の損傷	34	1月20日	1月15日	脊椎の骨折・脱臼
		頸部・体幹部の損傷	35	1月27日	1月22日	脊椎の骨折・脱臼
		頸部・体幹部の損傷	36	2月3日	1月29日	頸部・体幹部の軟部組織損傷
頸部・体幹部の損傷	37	2月10日	2月5日	頸部・体幹部の軟部組織損傷		
後期	各論	後期末試験	38	2月17日	2月12日	後期末試験
		解答・解説	39	2月24日	2月19日	解答・解説
体幹部	頸部・体幹部の損傷	40	3月3日	2月26日	頸部・体幹部の軟部組織損傷	
		合計時数	40	※7/15・9/23・11/4・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。		

講義科目名	一般臨床医学 I	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	関根 沙耶花	講義回数	40 回
履修学年	第 2 学 年 (I 部)	履修期間	通 年
講義内容	<p> 診断学および各臓器の疾患の特徴, 症状, 検査結果, 治療法を学んでいく。 疾患の特徴では基礎医学の知識を基盤に疾患の大まかな概念を理解する。 疾患の症状では臓器特有の症状および合併症に伴う症状を理解する。 疾患検査では臓器および疾患特有の検査値を理解する。 疾患の治療法は保存的治療と観血的治療に分けて理解する。 柔道整復師の国家試験に出題される事項を中心としてマインドマップによる授業を行う。 授業時間内に国家試験の過去問の問題演習および解説を行う。 理論と試験問題演習、マインドマップノート術により臨床医学を十分に理解する。 </p>		
評 価	<p> 期末試験の得点で各期末の評価とする。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。 </p>		
備 考			
参考書等	<p>各自で国家試験の過去問集を購入すること。</p>		

第2学年 科目(一般臨床医学I)

担当(関根 沙耶花)

週	編	章	節	時数	日付	内容
前期	1	診察概論	診察の意義	1	4月8日	学習の心構え、医療面接、診察の基本的考え方
	2	診察概論	視診	2	4月15日	視診の意義と方法、体格・体型、体位・姿勢、栄養状態(肥満とやせ)、精神状態
	3	診察各論	視診	3	4月22日	異常運動、歩行
	4	診察各論	視診	4	5月13日	皮膚の状態、皮膚から頭部の視診、眼から頭部の視診
	5	診察各論	視診	5	5月20日	胸部、腹部、背部、腰部、四肢の視診
	6	診察各論	打診	6	5月27日	打診の意義と方法、打診音の種類、胸部の打診、腹部の打診
	7	診察各論	聴診	7	6月3日	聴診の意義と方法、肺・心臓・腹部の聴診
	8	診察各論	触診	8	6月10日	触診の意義と方法、皮膚・皮下結節の触診、筋肉の触診
	9	診察各論	生命徴候	9	6月17日	バイタルサインの基本的考え方と測定方法、体温、血圧、脈拍、呼吸
	10	診察各論	感覚検査	10	6月24日	感覚検査の意義と方法、表在感覚・深部感覚・複合感覚の検査
	11	診察各論	反射検査	11	7月1日	反射検査の意義、表在反射、腱反射、病的反射、クロアース(間代)、自律神経反射
	12	診察各論	代表的な臨床症状	12	7月8日	発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、意識障害
	13	検査法	代表的な臨床症状	13	7月15日	チアノーゼ、関節痛、浮腫、肥満、やせ
	14	検査法	生理機能検査	14	7月22日	生理機能検査の意義、心電図検査、脳波検査、筋電図検査、検体検査、運動機能検査
	15	検査法	運動機能検査	15	7月29日	徒手筋力テスト、関節可動域テスト
	16	まとめ	復習	16	8月5日	問題演習
	17	まとめ	復習	17	8月19日	問題演習
	18	前期末試験		18	8月26日	前期末試験
19	解答・解説		19	9月2日	解答・解説	
20	主要な疾患	呼吸器疾患	20	9月9日	総論、風邪症候群・インフルエンザ・急性気管支炎・慢性気管支炎の疾患概念	
21	主要な疾患	呼吸器疾患	21	9月23日	肺炎・肺結核の疾患概念	
22	主要な疾患	呼吸器疾患	22	9月30日	気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の疾患概念	
23	主要な疾患	呼吸器疾患	23	10月7日	肺癌・肺血栓症・自然気胸の疾患概念	
24	主要な疾患	循環器疾患	24	10月21日	循環器総論、うっ血性心不全、狭心症、急性心筋梗塞の疾患概念	
25	主要な疾患	循環器疾患	25	10月28日	僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症の疾患概念	
26	主要な疾患	循環器疾患	26	11月4日	アロ一四徴症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症の疾患概念	
27	主要な疾患	循環器疾患	27	11月11日	高血圧症、大動脈瘤、急性大動脈解離、慢性動脈の疾患概念	
28	主要な疾患	循環器疾患	28	11月18日	静脈疾患、不整脈の疾患概念とまとめ	
29	主要な疾患	消化器疾患	29	11月25日	総論、食道炎・食道潰瘍、食道癌、食道静脈瘤の疾患概念	
30	主要な疾患	消化器疾患	30	12月2日	急性・慢性胃炎、消化性潰瘍、胃癌の疾患概念	
31	主要な疾患	消化器疾患	31	12月9日	潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、虚血性大腸炎の疾患概念	
32	主要な疾患	消化器疾患	32	12月16日	大腸癌、虫垂炎、腸閉塞(イレウス)の疾患概念	
33	主要な疾患	肝・胆・膵疾患	33	1月6日	急性ウイルス性肝炎、慢性肝炎、アルコール性肝障害、薬剤性肝障害の疾患概念	
34	主要な疾患	肝・胆・膵疾患	34	1月20日	自己免疫性肝障害、脂肪肝、肝硬変、肝癌の疾患概念	
35	主要な疾患	肝・胆・膵疾患	35	1月27日	胆石症、胆嚢炎、胆嚢ポリープ、胆嚢癌、総胆管癌の疾患概念	
36	主要な疾患	肝・胆・膵疾患	36	2月3日	急性・慢性膵炎、膵癌の疾患概念	
37	主要な疾患	腹膜疾患	37	2月10日	急性腹膜炎、癌性腹膜炎の疾患概念	
38	後期末試験		38	2月17日	後期末試験	
39	解答・解説		39	2月24日	解答・解説	
40	主要な疾患	代謝・栄養疾患	40	3月3日	糖尿病の疾患概念	
				40	合計時数	

※7/15・9/23・11/4・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。

※日程は変更されることがあります。

講義科目名	一般臨床医学 I	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	青山 正洋	講義回数	40 回
履修学年	第 2 学 年 (Ⅱ部)	履修期間	通 年
講義内容	<p>診断学および各臓器の疾患の特徴, 症状, 検査結果, 治療法を学んでいく. 疾患の特徴では基礎医学の知識を基盤に疾患の大まかな概念を理解する. 疾患の症状では臓器特有の症状および合併症に伴う症状を理解する. 疾患検査では臓器および疾患特有の検査値を理解する. 疾患の治療法は保存的治療と観血的治療に分けて理解する. 授業時間内に国家試験の過去問の問題演習および解説を行う.</p>		
評 価	<p>期末試験の得点で各期末の評価とする. 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある.</p>		
備 考			
参考書等	各自で国家試験の過去問集を購入すること.		

第2学年 科目 (一般臨床医学 I)

担当 (青山 正洋)

週	編	章	節	時数	日付	内容
前期	1	診察概論	診察の意義	1	4月9日	学習の心構え、医療面接、診察の基本的考え方
	2	診察概論	視診	2	4月16日	視診の意義と方法、体格・体型、体位・姿勢、栄養状態(肥満とやせ)、精神状態
	3	診察各論	視診	3	4月23日	異常運動、歩行
	4	診察各論	視診	4	5月7日	皮膚の状態、皮膚から頭部の視診、眼から頸部の視診
	5	診察各論	視診	5	5月14日	胸部、腹部、背部、腰部、四肢の視診
	6	診察各論	打診	6	5月21日	打診の意義と方法、打診音の種類、胸部の打診、腹部の打診
	7	診察各論	聴診	7	5月28日	聴診の意義と方法、肺・心臓・腹部の聴診
	8	診察各論	触診	8	6月4日	触診の意義と方法、皮膚・皮下結節の触診、筋肉の触診
	9	診察各論	生命徴候	9	6月11日	バイタルサインの基本的考え方と測定方法 体温、血圧、脈拍、呼吸
	10	診察各論	感覚検査	10	6月18日	感覚検査の意義と方法、表在感覚・深部感覚・複合感覚の検査
	11	診察各論	反射検査	11	6月25日	反射検査の意義、表在反射、腱反射、病的反射、クロールヌス(間代)、自律神経反射
	後期	12	診察各論	代表的な臨床症状	12	7月2日
13		検査法	代表的な臨床症状	13	7月9日	チアノーゼ、関節痛、浮腫、肥満、やせ
14		検査法	生理機能検査	14	7月16日	生理機能検査の意義、心電図検査、脳波検査、筋電図検査、検体検査、運動機能検査
15		検査法	運動機能検査	15	7月23日	徒手筋力テスト、関節可動域テスト
16			まとめ	16	7月30日	問題演習
17			まとめ	17	8月20日	問題演習
18			前期末試験	18	8月27日	前期末試験
19			解答・解説	19	9月3日	解答・解説
20			主要な疾患	20	9月10日	総論、風邪症候群・インフルエンザ・急性気管支炎・慢性気管支炎の疾患概念
21			主要な疾患	21	9月24日	肺炎・肺結核の疾患概念
22			主要な疾患	22	10月8日	気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の疾患概念
23			主要な疾患	23	10月15日	肺癌・肺血栓症・自然気胸の疾患概念
24		主要な疾患	24	10月22日	循環器総論、うっ血性心不全、狭心症、急性心筋梗塞の疾患概念	
25		主要な疾患	25	10月29日	僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症の疾患概念	
26		主要な疾患	26	11月5日	アロー四徴症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、慢性動脈の疾患概念	
27		主要な疾患	27	11月12日	高血圧症、大動脈瘤、急性大動脈解離、慢性動脈の疾患概念	
28		主要な疾患	28	11月19日	静脈疾患、不整脈の疾患概念とまとめ	
29		主要な疾患	29	11月26日	総論、食道炎・食道潰瘍、食道癌、食道静脈瘤の疾患概念	
30		主要な疾患	30	12月3日	急性・慢性胃炎、消化性潰瘍、胃癌の疾患概念	
31		主要な疾患	31	12月10日	潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、虚血性大腸炎の疾患概念	
32		主要な疾患	32	12月17日	大腸癌、虫垂炎、腸閉塞(イレウス)の疾患概念	
33		主要な疾患	33	1月7日	急性ウイルス性肝炎、慢性肝炎、アルコール性肝障害、薬剤性肝障害の疾患概念	
34		主要な疾患	34	1月14日	自己免疫性肝障害、脂肪肝、肝硬変、肝癌の疾患概念	
35		主要な疾患	35	1月21日	胆石症、胆嚢炎、胆嚢ポリープ、胆嚢癌、総胆管癌の疾患概念	
36		主要な疾患	36	1月28日	急性・慢性膵炎、膵癌の疾患概念	
37		主要な疾患	37	2月4日	急性腹膜炎、癌性腹膜炎の疾患概念	
38		後期末試験	38	2月11日	後期末試験	
39		解答・解説	39	2月18日	解答・解説	
40		主要な疾患	代謝・栄養疾患	40	2月25日	糖尿病の疾患概念
合計 時数				40		

※2月11日は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。
 ※日程は変更されることがあります。

講義科目名	解剖学Ⅱ	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	後藤 香織	講義回数	40回
履修学年	第2学年	履修期間	通年
講義内容	<p>人体の構造と機能について 脈管系 内臓系 内分泌系 神経系 感覚器系に系統ごとに分割し 管系では動脈、静脈、リンパ管の構造及び分布について。内臓系は消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器に分類し解剖学的特徴について。内分泌系では内分泌臓器の解剖学的特徴と分泌物の種類や作用について。神経系では中枢神経と末梢神経に分けそれぞれの走行及び支配について。感覚器では視覚 聴覚 味覚 嗅覚 皮膚感覚それぞれの感覚受容器について講義を行う。</p>		
評価	<p>解剖見学実習の出席は必須とする。欠席の場合は単位を認定しない。 期末試験の得点が各期末の評価となる。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考			
参考書等	<p>講義は教科書を用いて行う。スライド及びプリント・DVDの映像も用いる。</p>		

第2学年 科目(解剖学Ⅱ)

担当(後藤 香織)

週	編	章	節	時数	日付(I部)	日付(II部)	内容	
前期	1	脈管系	脈管系総論	1	4月9日	4月8日	体循環と肺循環、血管の構造	
	2		脈管系各論①心臓	2	4月16日	4月15日	心臓の構造、弁、刺激伝導系、冠状動脈	
	3		脈管系各論②動脈	3	4月23日	4月22日	大動脈 頭頸部・上肢の動脈について	
	4		動脈	4	5月7日	5月13日	胸大動脈 腹大動脈 骨盤部の動脈 下肢の動脈について	
	5		静脈	5	5月14日	5月20日	上大静脈 下大静脈 門脈 骨盤部の静脈について	
	6	内臓系	リンパ系	6	5月21日	5月27日	リンパ管 脾臓 胸腺 胎児循環について	
	7		消化器	7	5月28日	6月3日	口腔 咽頭 食道の機能と構造について	
	8		消化器	8	6月4日	6月10日	胃 小腸(十二指腸・空腸・回腸)大腸(盲腸・結腸・直腸)の機能と構造について	
	9		消化器	9	6月11日	6月17日	肝臓・胆のう・膵臓・腹膜の機能と構造について	
	10		呼吸器	10	6月18日	6月24日	鼻腔 咽頭 喉頭の機能と構造について	
	11		呼吸器	11	6月25日	7月1日	気管 気管支 肺の機能と構造について	
	12		泌尿器	12	7月2日	7月8日	腎臓 尿管 尿道 膀胱の機能と構造について	
	13		生殖器	13	7月9日	7月15日	男性生殖器の構造と機能について	
	14		生殖器	14	7月16日	7月22日	女性生殖器の構造と機能について	
	15	内分泌系	内分泌器	15	7月23日	7月29日	下垂体 松果体 甲状腺の機能と構造について	
	16		内分泌器	16	7月30日	8月5日	上皮小体 副腎 睪臓 精巣 卵巢の機能と構造について	
	17		総合復習	17	8月20日	8月19日	復習	
18		前期末試験	18	8月27日	8月26日	前期末試験		
19		解答・解説	19	9月3日	9月2日	解答・解説		
20		総合復習	20	9月10日	9月9日	復習		
後期	21	神経系	神経系基礎	21	9月24日	9月23日	神経組織 及び灰白質 白質の違い	
	22		中枢神経	22	10月8日	9月30日	脳室系と脳脊髄液について	
	23		中枢神経	23	10月15日	10月7日	終脳 間脳 小脳 脳幹の構造と機能について	
	24		中枢神経	24	10月22日	10月21日	脊髄の内部構造とベルマジャンディの法則について	
	25		復習	25	10月29日	10月28日	復習	
	26		伝導路	26	11月5日	11月4日	反射路 上行性 下行性伝導路について	
	27		復習	27	11月12日	11月11日	復習	
	28		末梢神経	28	11月19日	11月18日	嗅神経12対 嗅神経から外転神経	
	29		末梢神経	29	11月26日	11月25日	顔面神経12対 顔面神経から舌下神経	
	30		末梢神経	30	12月3日	12月2日	脊髄神経 頸神経叢から腰神経叢	
	31		末梢神経	31	12月10日	12月9日	仙骨神経叢から尾骨神経及びデルマトーム(皮膚感覚)について	
	32		自律神経	32	12月17日	12月16日	交感神経と副交感神経の支配について	
	33		復習	33	1月7日	1月6日	復習	
	34	感覚器	外皮	34	1月14日	1月20日	皮膚 筋 腱 関節の感覚受容器について	
	35		視覚器	35	1月21日	1月27日	眼球及び眼球付属器の構造と機能について	
	36		聴覚器及び平衡器	36	1月28日	2月3日	外耳 中耳 内耳の構造及び機能について	
	37		味覚器、嗅覚器	37	2月4日	2月10日	味蕾及び味覚神経について 嗅粘膜の構造及び嗅覚の経路について	
	38		後期末試験	38	2月11日	2月17日	後期末試験	
	39		解答・解説	39	2月18日	2月24日	解答・解説	
	40		総合演習	40	2月25日	3月3日	総合演習	
	合計時数				40			

※7/15・9/23・11/4・2/11・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。

※日程は変更されることがあります。

講義科目名	生理学Ⅱ	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	後藤 香織	講義回数	40回
履修学年	第2学年	履修期間	通年
講義内容	<p>2年生で履修する生理学Ⅱでは、泌尿器や内分泌系と神経系が主な内容となります。これは学生諸君にはやや難しいのですが、学んで得たことは将来に役立ちますので、ぜひ知識として収めていただきたいです。</p>		
評価	<p>期末試験の得点が各期末の評価となる。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考			
参考書等	<p>講義は教科書を用いて行う スライド及びプリント DVDの映像も用いる 参考書は、講義中で紹介する予定である。</p>		

第2学年 科目(生理学Ⅱ)

担当(後藤 香織)

週	編	節	時数	日付(I部)	日付(II部)	内容
1		A~B	1	4月9日	4月8日	腎の構造と機能
2		C~D	2	4月16日	4月15日	糸球体ろ過量
3		E~F	3	4月23日	4月22日	尿細管における再吸収・分泌・排尿
4		G~H	4	5月7日	5月13日	排尿のしくみ
5			5	5月14日	5月20日	復習
6		A~C	6	5月21日	5月27日	内分泌腺の概要とホルモンの一般的性質
7		D~E	7	5月28日	6月3日	視床下部と下垂体のホルモン
8		F~H	8	6月4日	6月10日	甲状腺、副腎皮質・髄質のホルモン
9		I~K	9	6月11日	6月17日	膵臓、生殖腺のホルモン
10			10	6月18日	6月24日	復習
11	前期		11	6月25日	7月1日	復習
12		A~B	12	7月2日	7月8日	性染色体異常、性分化
13		C~D	13	7月9日	7月15日	男性生殖器系
14		E~K	14	7月16日	7月22日	女性生殖器
15		H~K	15	7月23日	7月29日	出産、分娩
16			16	7月30日	8月5日	復習
17		章全体	17	8月20日	8月19日	カルシウム代謝の3つのホルモン他
18			18	8月27日	8月26日	前期末試験
19			19	9月3日	9月2日	解答・解説
20		A~D	20	9月10日	9月9日	静止膜電位と活動電位、興奮の伝導他
21			21	9月24日	9月23日	複合活動電位
22		H~J	22	10月8日	9月30日	化学伝達物質
23		A	23	10月15日	10月7日	まとめ
24		B~C	24	10月22日	10月21日	神経系の分類、反射
25		D	25	10月29日	10月28日	内臓機能の調節、視床下部の調節
26		E	26	11月5日	11月4日	まとめ
27		A~C	27	11月12日	11月11日	姿勢と運動
28		D~G	28	11月19日	11月18日	高次神経
29		H~K	29	11月26日	11月25日	まとめ
30		A~D	30	12月3日	12月2日	筋の種類と構造、収縮のしくみ
31		E~F	31	12月10日	12月9日	骨格筋の収縮
32		G~H	32	12月17日	12月16日	筋収縮のエネルギー他
33			33	1月7日	1月6日	まとめ
34			34	1月14日	1月20日	感覚器、体性感覚と内臓感覚
35			35	1月21日	1月27日	嗅覚と味覚、聴覚
36			36	1月28日	2月3日	視覚と前庭感覚
37			37	2月4日	2月10日	まとめ
38			38	2月11日	2月17日	後期末試験
39			39	2月18日	2月24日	解答・解説
40			40	2月25日	3月3日	総合演習
		合計時数	40			

※7/15・9/23・11/4・2/11・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。

※日程は変更されることがあります。

講義科目名	柔道整復実技Ⅴ	分野区分	専門分野
担当教員名	齊藤 文教(実務経験有り)	講義回数	40回
履修学年	第2学年	履修期間	通年
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学の総論および各論についてしっかり復習する。 ・認定実技審査試験の合格を目指し、かつ卒業後の備えとして外傷の発生機序、症状、鑑別診断、検査法の意義・方法などについてしっかり理解し、各種テスト法を適切な速さで正確に行えるように繰り返し訓練を行う。 ・基本包帯法・冠名包帯法についても速く綺麗に巻けるようにする。 ・「全員が、どの項目でも5分間で終了できる」ことを目標とする。 		
評価	<p>筆記試験と実技試験で各期末の評価とする。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考	<p>実技の際には必ず白衣と短パンを着用のこと。</p>		
参考書等			

第2学年 科目(柔道整復実技V)

担当(斉藤文教)

週	編	節	時数	日付(I部)	日付(II部)	内容
1			1	4月10日	4月9日	基本包帯 冠名包帯
2			2	4月17日	4月16日	肩関節脱臼理論 整復
3			3	4月24日	4月23日	肩関節脱臼整復
4			4	5月8日	5月7日	肩関節脱臼固定
5			5	5月15日	5月14日	肩関節脱臼整復 固定
6			6	5月22日	5月21日	肩鎖関節脱臼理論 整復
7			7	5月29日	5月28日	肩鎖関節脱臼固定
8			8	6月5日	6月4日	肩鎖関節脱臼整復 固定
9			9	6月12日	6月11日	鎖骨骨折理論 整復
10			10	6月19日	6月18日	鎖骨骨折整復
11			11	6月26日	6月25日	鎖骨骨折整復 固定
12			12	7月3日	7月2日	肋骨骨折 理論 固定
13			13	7月10日	7月9日	柔道整復学の総合的な復習
14			14	7月17日	7月16日	実技試験
15			15	7月24日	7月23日	実技試験
16			16	7月31日	7月30日	実技試験
17			17	8月7日	8月6日	実技試験
18			18	8月14日	8月13日	前期末試験
19			19	8月21日	8月20日	解答・解説
20			20	9月4日	9月3日	解答・解説
21			21	9月11日	9月10日	橈骨下端骨折理論 整復
22			22	9月18日	9月17日	橈骨下端骨折整復
23			23	10月2日	10月1日	橈骨下端骨折固定
24			24	10月9日	10月8日	橈骨下端骨折整復 固定
25			25	10月16日	10月15日	肘関節脱臼理論 整復
26			26	10月23日	10月22日	肘関節脱臼整復
27			27	10月30日	10月29日	肘関節脱臼整復 固定
28			28	11月6日	11月5日	肘関節脱臼整復 固定
29			29	11月13日	11月12日	上腕骨外科頸骨折理論 整復
30			30	11月20日	11月19日	上腕骨外科頸骨折 整復
31			31	11月27日	11月26日	上腕骨外科頸骨折 固定
32			32	12月4日	12月3日	上腕骨外科頸骨折 整復 固定
33			33	12月11日	12月10日	基本包帯 冠名包帯
34			34	12月18日	12月17日	PIP関節背側脱臼 ボクサー骨折 理論 整復 固定
35			35	1月8日	1月7日	PIP関節背側脱臼 復習
36			36	1月15日	1月14日	外転副子 固定 復習
37			37	1月22日	1月21日	実技試験
38			38	1月29日	1月28日	実技試験
39			39	2月5日	2月4日	実技試験
40			40	2月12日	2月11日	後期末試験
			40	2月19日	2月18日	解答・解説
			40	2月26日	2月25日	後期復習
合計時数			40	※2月11日は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。		

講義科目名	柔道整復学Ⅳ	分野区分	専門分野
担当教員名	武隈 覚正	講義回数	40回
履修学年	第2学年	履修期間	通年
講義内容	<p>・授業形態 講義形式(教科書、プリント、パワーポイントなど)</p> <p>・授業の目的 下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法について学習する。 総論として骨・関節、神経・筋肉の機能解剖と病態について復習し、各論として診断法、治療法、検査法についても学習する。 実技授業への基本知識を習得し足掛かりとできるよう言葉だけでなく、イメージができるようになってください。</p>		
評価	<p>期末試験が各期末の評価となる。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考			
参考書等	<p>配布するプリント 柔道整復学・理論編、実技編</p>		

第2学年科目(柔道整復学Ⅳ) 担当(武隈 覚正)

週	編	章	節	時数	日付	内容
1	前期	第三章	骨盤部の損傷	1	4月11日	骨盤の構造
2				4月18日	骨盤骨の骨折	
3				4月25日	骨盤骨の骨折	
4				5月2日	股関節の構造	
5			5月16日	大腿骨近位部の骨折		
6			5月23日	大腿骨近位部の骨折		
7			5月30日	股関節脱臼		
8			6月6日	股関節脱臼		
9			6月13日	股関節部の軟部組織損傷		
10			6月20日	大腿部の構造		
11	後期	第三章	大腿部の損傷	11	6月27日	大腿骨幹部の骨折
12				7月4日	大腿部の軟部組織損傷	
13				7月11日	膝部の構造	
14				7月18日	大腿骨遠位部の骨折	
15			7月25日	大腿骨遠位部の骨折		
16			8月1日	下腿近位部の骨折		
17			8月22日	下腿近位部の骨折		
18			8月29日	前期末試験		
19			9月5日	解答・解説		
20			9月12日	膝関節脱臼		
21	後期	第三章	膝関節部の損傷	21	10月3日	膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼
22				10月10日	膝関節部の軟部組織損傷	
23				10月17日	膝関節部の軟部組織損傷	
24				10月24日	下腿の構造	
25			10月31日	下腿骨幹部骨折		
26			11月7日	下腿骨幹部骨折		
27			11月14日	下腿部軟部組織損傷		
28			11月21日	足関節・足趾の構造		
29			11月28日	下腿骨遠位部の骨折		
30			12月5日	下腿骨遠位部の骨折		
31	後期	第三章	足関節部の損傷	31	12月12日	足根骨骨折
32				12月19日	足根骨骨折	
33				1月9日	足部関節部の脱臼	
34				1月16日	足関節部の軟部組織損傷	
35			1月23日	足関節部の軟部組織損傷		
36			1月30日	足根部の脱臼と軟部組織損傷		
37			2月6日	中足趾関節、趾節間関節の脱臼・足、趾部の軟部組織損傷		
38			2月13日	後期末試験		
39			2月20日	解答・解説		
40			2月27日	総合演習		
			下肢各論			
合計時数				40	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	柔道整復実技Ⅵ	分野区分	専門分野
担当教員名	菅野 奈央美(実務経験有り)	講義回数	40回
履修学年	第2学年	履修期間	通年
講義内容	<p>・授業形態</p> <p>講義形式(プロジェクター・板書・プリント配布など)、実技形式</p> <p>・授業目的</p> <p>1年生で学んだ総論を基に、上肢の各論を学び、柔道整復学の礎を完成させる。臨床現場でどのように使っていくか考えながら知識を深める。</p> <p>・授業の内容</p> <p>年間指導計画表を参考のこと。</p>		
評価	<p>・期末試験の得点が各期末の評価となる。</p> <p>・出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考			
参考書等	<p>柔道整復学理論編 柔道整復学実技偏</p>		

第2学年 科目(柔道整復実技VI) 担当(菅野 奈央美)

週	編	章	節	時数	日付	内容
1				1	4月11日	柔道整復学で必要な基礎知識
2				2	4月18日	上肢外傷で必要な解剖の知識
3				3	4月25日	上腕骨遠位部の骨折
4				4	5月9日	上腕骨遠位部の骨折
5				5	5月16日	上腕骨遠位部の骨折
6				6	5月23日	前腕骨遠位部の骨折
7				7	5月30日	前腕骨近位部の骨折
8				8	6月6日	前腕骨近位部の骨折
9				9	6月13日	前腕骨骨幹部の骨折
10				10	6月20日	前腕骨骨幹部の骨折
11				11	6月27日	前腕骨遠位端部骨折
12				12	7月4日	前腕骨遠位端部骨折
13				13	7月11日	前腕骨遠位端部骨折
14				14	7月18日	前腕骨遠位端部骨折
15				15	7月25日	手根骨部の骨折
16				16	8月11日	中手骨部の骨折
17				17	8月22日	中手骨部の骨折
18				18	8月29日	期末試験
19				19	9月5日	解答解説
20				20	9月12日	指部の骨折
21				21	9月26日	指部の骨折
22				22	10月3日	指部の骨折
23				23	10月10日	肘関節の脱臼
24				24	10月17日	肘関節の脱臼
25				25	10月24日	肘関節の脱臼
26				26	10月31日	手関節部の脱臼
27				27	11月7日	手根中手関節部の脱臼
28				28	11月21日	中手指節関節、指節間関節の脱臼
29				29	11月28日	中手指節関節、指節間関節の脱臼
30				30	12月5日	肘関節部の軟部組織損傷
31				31	12月12日	肘関節部の軟部組織損傷
32				32	12月19日	前腕部の軟部組織損傷
33				33	1月9日	前腕部の軟部組織損傷
34				34	1月16日	手関節部の軟部組織損傷
35				35	1月23日	手関節部の軟部組織損傷
36				36	1月30日	手部、指部の軟部組織損傷
37				37	2月6日	手部、指部の軟部組織損傷
38				38	2月13日	期末試験
39				39	2月20日	解答解説
40				40	2月27日	総合演習
				合計時数	40	※日程は変更されることがあります。

前期

後期

合計時数

※日程は変更されることがあります。

講義科目名	柔道整復実技Ⅳ	分野区分	専門分野
担当教員名	金子 充夫(実務経験有り)	講義回数	40回
履修学年	第2学年	履修期間	通年
講義内容	<p>3年後期に実施される認定実技審査試験で合格できるよう、外傷の発生機序、症状、鑑別診断、検査法の意義・方法などについてしっかり理解し、各種テスト法を適切な速さかつ高い精度で行えるように繰り返し訓練を行う。</p> <p>また、包帯法についても速く綺麗に巻けるようにする。</p> <p>「全員が、どの項目でも5分間で終了できる」ことを目標とする。</p>		
評価	<p>期末試験(筆記試験と実技試験)が各期末の評価とする。</p> <p>出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考	<p>授業時の服装・身だしなみ等は「学生便覧」に準じる。</p> <p>「神経血管損傷の有無の確認」の練習のためすぐに裸足になれるような状態にいること。</p> <p>包帯・ホワイトテープを使用するので、いつでも使えるように準備しておくこと。</p>		
参考書等	柔道整復学・実技偏		

第2学年科目(柔道整復実技Ⅳ) 担当(金子 充夫)

週	編	章	節	時数	日付	内容
1				1	4月11日	ハムストリングス損傷
2				2	4月18日	ハムストリングス損傷
3				3	4月25日	足関節テーピング バスケットウィーブ
4				4	5月9日	大腿四頭筋打撲
5				5	5月16日	大腿四頭筋打撲
6				6	5月23日	足関節テーピング フィギュアエイトとヒールロック
7				7	5月30日	膝関節側副帯損傷
8				8	6月6日	膝関節側副帯損傷
9				9	6月13日	アキレス腱断裂のクラマーメル固定
10				10	6月20日	膝関節十字靭帯損傷
11				11	6月27日	膝関節十字靭帯損傷
12				12	7月4日	下腿骨幹部骨折のクラマーメル固定
13				13	7月11日	総復習
14				14	7月18日	総復習
15				15	7月25日	前期末試験 (実技①)
16				16	8月1日	前期末試験 (実技②)
17				17	8月22日	前期末試験 (実技③)
18				18	8月29日	前期末試験 (筆記)
19				19	9月5日	前期末試験 (筆記) 解答・解説
20				20	9月12日	膝関節半月板損傷
21				21	9月26日	膝関節半月板損傷
22				22	10月3日	膝関節テーピング
23				23	10月10日	膝関節テーピング
24				24	10月17日	下腿三頭筋損傷
25				25	10月24日	下腿三頭筋損傷
26				26	10月31日	足関節捻挫
27				27	11月7日	足関節捻挫
28				28	11月21日	足関節厚紙副子固定
29				29	11月28日	足関節厚紙副子固定
30				30	12月5日	総復習
31				31	12月12日	総復習
32				32	12月19日	総復習
33				33	1月9日	総復習
34				34	1月16日	後期末試験 (実技①)
35				35	1月23日	後期末試験 (実技②)
36				36	1月30日	後期末試験 (実技③)
37				37	2月6日	後期末試験 (実技④)
38				38	2月13日	後期末試験 (筆記)
39				39	2月20日	後期末試験 (筆記) 解答・解説
40				40	2月27日	総復習
				合計	40	※日程は変更されることがあります。

講義科目名	保健体育	分野区分	基礎分野
担当教員名	新井 信雄	講義回数	20 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	前 期
講義内容	<p>○柔道の基礎・基本的知識を身につけさせる。 ・柔道の歴史 ・柔道の精神 ・正しい礼法 ・正しい姿勢とたい捌き</p> <p>○柔道の投技・固技の基本的な技術を指導する。 (投技の指導) ・手技(背負い投げ、体落とし等) ・腰技(大腰、払い腰、釣り込み腰等) ・足技(足払い、小外刈り、大外刈り、小内刈り、大内刈り等) ・捨て身技(巴投げ等) (固め技の指導) ・抑え込み技(袈裟固め、横四方固め、上四方固め等) ・絞め技(裸絞め、送り襟絞め、肩羽絞め等) ・関節技(腕がらみ、腕ひしぎ十字固め等) ・活 法</p> <p>○準備運動や整理運動を十分に行わせ、怪我の防止に努める。)</p> <p>○技によって、起こりやすいけがを理解させ、その手当ての方法を考えさせる。</p>		
評 価	出席状況、授業態度などは年度末の総合評価の時点で加味することがある。		
備 考			
参考書等	○柔道実技 虎の巻 ○必要に応じてプリント等を配布する。		

第2学年 科目(保健体育)

担当(新井 信雄)

週	編	章	節	時数	日付	内容
1		柔道の歴史・礼法	柔道の歴史概略、座礼・立礼	1	4月12日	・柔道の起こり。 礼法
2		受け身	(・後ろ・横・前回り受け身)	2	4月19日	・後ろ受け身、横受け身、前回り受け身の確認と修正
3		くずしと体さばき	八方のくずし、前・後ろさばき	3	4月26日	・八方のくずしの説明。前・後ろ・前回り等の体さばきの説明
4		乱取り練習	立ち技・寝技乱取り	4	5月10日	・乱取り練習(今までの技を使得の攻防)
5		投技(足技)	小内刈り・大内刈り	5	5月17日	・小内刈り・大内刈りの指導、練習
6		投技(足技)	小外刈り・大外刈り	6	5月24日	・小外刈り・大外刈りの指導、練習
7		乱取り練習	立ち技・乱取り	7	5月31日	・足技を使得た乱取り練習
8		固技(抑込技)	袈裟固・横四方固	8	6月7日	・固技(抑込技)の指導、袈裟固・横四方固
9		固技(抑込技)	上四方固・縦四方固	9	6月14日	・固技(抑込技)の指導、上四方固・縦四方固
10		乱取り練習	寝技・乱取り	10	6月21日	・抑込技を使得た乱取り練習
11		投技(手技)	背負投・体落	11	6月28日	・背負投の指導、練習・体落の指導、練習
12		乱取り練習	立ち技・乱取り	12	7月5日	・手技・足技を使得た乱取り練習
13		投技(腰技)	大腰	13	7月12日	・大腰の指導、練習
14		投技(腰技)	払腰	14	7月19日	・払腰の指導、練習
15		乱取り練習	立ち技・乱取り	15	7月26日	・手技・足技・腰技を使得た乱取り練習
16		固技(絞技)	送襟絞・片羽絞	16	8月2日	・送襟絞・片羽絞の指導、練習
17		復習と乱取り	復習と乱取り	17	8月23日	・今まで習った技の復習と乱取り練習
18		前期未試験	実技試験	18	8月30日	・受け身・投技・固技の実技試験
19		解答・解説	実技試験の解答・解説	19	9月6日	・実技試験の解説と試験の解説
20		試 合	試 合	20	9月13日	・紅白に分かれての試合
				合計時数	20	※日程は変更されることがあります。

前期

講義科目名	コミュニケーション理論	分野区分	基礎分野
担当教員名	梅山 理恵	講義回数	20回
履修学年	第2学年	履修期間	後期
講義内容	<p>この授業では、「コミュニケーションとは何か」について、様々な視点から学ぶことを目的とします。また、授業を通じて知識として学ぶだけでなく、活用できる力を養うことを期待します。</p> <p>日常生活で、言葉によるやりとりは当たり前のように行われ、様々なコミュニケーションツールも増えていますが、「誰とでも話ができること」を「コミュニケーション能力が高い」と勘違いしている人も多くいるように思います。一方的な会話はコミュニケーションとは呼べません。真のコミュニケーション及びコミュニケーション能力とは何かについて学ぶことで、コミュニケーションについてより深い理解に到達することを目指します。</p> <p>さらに、柔道整復師として必要なコミュニケーション技術に関する知識と技術を習得し、卒業後に生かすことも目標とします。</p> <p>特に患者さんとの信頼関係を構築するために必要なコミュニケーション技法について理解を深めるとともに、様々なワークを通じてチームビルディングの方法についても学びます。</p>		
評価	<p>定期試験だけでなく、授業態度を重視します。</p> <p>主に普段のグループワーク・討論などの態度を重視して評価します。</p> <p>コミュニケーション研修の出席は必須とする。欠席の場合は単位を認定しないことがあります。</p>		
備考	<p>講義はスライド及びプリントを用いて行います。</p>		
参考書等	<p>テキストは使用しません。授業時にプリントを配ります。</p>		

第2学年 科目(コミュニケーション理論) 担当(梅山 理恵)

週	編	章	節	時数	日付	内容
21			オリエンテーション	1	9月27日	コミュニケーションを学ぶ意義
22				2	10月4日	アイスブレイク
23				3	10月11日	セルフリサーチ①(自己理解)
24				4	10月18日	セルフリサーチ②(自己理解と相手理解)
25				5	10月25日	1Wayコミュニケーションの練習(スピーチ)
26				6	11月1日	非言語コミュニケーション
27				7	11月8日	言語コミュニケーション①(聴き方・質問技法)
28				8	11月22日	言語コミュニケーション②(話し方・気持ちの良い会話)
29				9	11月29日	アサーションワーク(自己主張)①
30				10	12月6日	アサーションワーク(自己主張)②
31				11	12月13日	ストレスマネジメント
32				12	12月20日	チームビルディング
33				13	1月10日	現代のコミュニケーションツールを使う①
34				14	1月17日	現代のコミュニケーションツールを使う②
35				15	1月24日	現代のコミュニケーションツールを使う③
36				16	1月31日	ティーチングとコーチング
37				17	2月7日	復習・まとめ
38				18	2月14日	後期末試験
39				19	2月21日	解答・解説
40				20	2月28日	ビジネスコミュニケーション
合計時数				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	病理学概論	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	白石 友子	講義回数	40回
履修学年	第2学年	履修期間	通年
講義内容	<p>疾病とは、生体の恒常性が破綻した状態であり、自覚的には発熱、疼痛、食欲不振、下痢、呼吸困難などのさまざまな症状が現れる。また、客観的には、尿や便の異常、血清の分析結果の異常、画像所見の異常、心電図の異常などとして認識される。病理学は、このような疾病の原因と成り立ちを明らかにする学問であり、臨床医学分野では、疾病の状態を診断して治療の方針を決める病理診断学として重要な役割を担っている。病理学概論の講義では、病理学の基礎を学ぶことによって、疾病の病態生理を十分に理解することを目標とする。</p>		
評価	<p>期末試験の得点が各期末の評価となる。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考			
参考書等	病理学概論		

第2学年 科目(病理学概論)

担当(白石友子)

週	編	章	節	時数	日付	内容
1		1章	病理学の意義	1	4月12日	病理学とは、疾病の一般
2		3章	退行性病変	2	4月19日	退行性病変(萎縮)
3				3	4月26日	退行性病変(変性)
4				4	5月10日	色素代謝異常, 糖尿病
5				5	5月17日	退行性病変(老化, 壊死)
6		4章	循環障害	6	5月24日	死後変化, 循環障害(充血, うっ血)
7				7	5月31日	循環障害(虚血, 出血, 血栓)
8				8	6月7日	循環障害(塞栓, 梗塞)
9				9	6月14日	循環障害(水腫, 脱水, 高血圧)
10			進行性病変	10	6月21日	進行性病変(肥大, 過形成, 再生, 化生)
11				11	6月28日	創傷治癒, 異物処理, 移植
12			炎症	12	7月5日	炎症の一般, 原因, 形態学的変化
13				13	7月12日	炎症の分類(1)
14				14	7月19日	炎症の分類(2)
15				15	7月26日	総合問題演習(1)
16				16	8月2日	総合問題演習(2)
17				17	8月23日	総合問題演習(3)
18				18	8月30日	前期末試験
19				19	9月6日	解答・解説
20		7章	免疫	20	9月13日	免疫のしくみ
21				21	9月27日	免疫不全, 自己免疫疾患
22		8章	腫瘍	22	10月4日	自己免疫疾患, アレルギ-
23				23	10月11日	腫瘍の定義, 肉眼的形態
24				24	10月18日	腫瘍の発生, 前癌性病変, 早期・進行癌, 転移
25				25	10月25日	腫瘍の生体への影響, 腫瘍外因
26				26	11月1日	腫瘍内因, 癌の診断と治療, 良性腫瘍
27		9章	先天性異常	27	11月8日	悪性腫瘍
28				28	11月22日	主要な癌, 先天性異常総論
29				29	11月29日	遺伝子異常, 染色体異常
30		10章	病因	30	12月6日	奇形の原因, 種類
31				31	12月13日	奇形各論, 病気の内因
32				32	12月20日	外因(栄養障害)
33				33	1月10日	外因(物理, 化学)
34				34	1月17日	外因(化学, 生物)
35				35	1月24日	総合問題演習(1)
36				36	1月31日	総合問題演習(2)
37				37	2月7日	総合問題演習(3)
38				38	2月14日	後期末試験
39				39	2月21日	解答・解説
40				40	2月28日	総括
				合計時数	40	※日程は変更されることがあります。

講義科目名	演習Ⅱ	分野区分	応用分野
担当教員名	福田 泰昌	講義回数	32回
履修学年	第2学年	履修期間	通年
講義内容	<p>1年生および2年生において学習する内容を総合的に復習する。 国家試験に合格するために必要となる基礎学力を高めることを目標とする。</p> <p>就職ガイダンスでは、将来的なビジョンの獲得を目指す。 就職先として、様々な分野の、それぞれの考え方や施術方法などを学ぶことで、自分のビジョンを明確にし、早い段階から仕事に対する意識を持つようにする。</p>		
評価	<p>期末試験の得点(前期末試験と後期末試験の平均値)を評価とする。 出席状況、授業態度、小テストの結果などは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考			
参考書等	<p>1年生および2年生で使用する教科書 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理</p>		

第2学年 科目(演習Ⅱ)

担当(福田 泰昌)

週	編	章	時数	日付(I部)	日付(II部)	内容
			1	4月5日	4月5日	在校生オリエンテーション
			2	4月5日	4月5日	在校生オリエンテーション
			3	4月5日	4月5日	在校生オリエンテーション
			4	4月25日	4月26日	総合演習
			5	4月25日	4月26日	総合演習
			6	5月9日	5月10日	総合演習
			7	5月9日	5月10日	総合演習
			8	5月23日	5月24日	総合演習
			9	5月23日	5月24日	総合演習
			10	6月13日	6月14日	総合演習
			11	6月13日	6月14日	総合演習
			12	6月20日	6月21日	総合演習
			13	6月20日	6月21日	総合演習
			14	6月29日	6月29日	前期末試験
			15	6月29日	6月29日	前期末試験
			16	7月7日	7月7日	就職ガイダンス
			17	7月7日	7月7日	就職ガイダンス
			18	7月14日	7月14日	総合演習
			19	7月14日	7月14日	総合演習
			20	7月14日	7月14日	総合演習
			21	9月26日	9月27日	総合演習
			22	9月26日	9月27日	総合演習
			23	10月10日	10月11日	総合演習
			24	10月10日	10月11日	総合演習
			25	10月24日	10月25日	総合演習
			26	10月24日	10月25日	総合演習
			27	11月21日	11月22日	総合演習
			28	11月21日	11月22日	総合演習
			29			総合演習
			30			総合演習
			31	12月7日	12月7日	後期末試験
			32	12月7日	12月7日	後期末試験
合計時数			32	※第29・30限目は日程が確定次第お知らせします。 ※日程は変更されることがあります。(7/14は授業扱いとなりますのでご注意ください。)		

講義科目名	臨床実習Ⅱ	分野区分	専門分野
担当教員名	梅山 貴史(実務経験有り)	単位	総単位63となるよう 選択取得
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動での研修により実際の柔道整復術および患者様対応などを学ぶ。 ・課外活動を行う上で、必要な知識・技術を学ぶ。 ・実際に接骨院で行う受付・施術・施術録の作成等、業務全般について学ぶ。 <p>※各自必要な単位を満たすように、選択してください。 球技大会・体育祭は全員参加となります。</p>		
評 価	<p>実習中の言動・態度・取り組み、また実習終了後に提出するレポートで評価する。 出席状況、授業態度などは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備 考	<p>学校で購入したポロシャツと、動きやすいズボン、動くのに適した靴を履いてくること。 実技の授業と同様、装飾品等の着用は出席と認めないので実習開始前までには外すこと。</p>		
参考書等			

第2学年 科目(臨床実習Ⅱ) 担当(梅山 貴史)

項目		実習	時限	内容
4月26日	赤城トレイル事前練	<p>選択制 左の項目から 37時限以上 出席すること (各イベントの時限数は 後日配布する別紙参照)</p>	1~37	<p>各実習に参加する前に、 必ずその実習の事前練習に参加すること。 例)陸上救護①or②を希望する場合・・・ 5月10日の陸上大会事前練習に参加する。</p>
4月27日	赤城トレイルマラソン			
5月10日	陸上大会事前練			
5月11日	陸上救護①			
5月12日	陸上救護②			
5月1日	レスリング部事前練			
5月10日	レスリング部救護①			
5月24日	レスリング部救護②			
5月31日	レスリング部救護③			
6月5日	レスリング部事前練			
6月21日	レスリング部救護④			
6月28日	レスリング部救護⑤			
7月3日	レスリング部事前練			
7月5日	レスリング部救護⑥			
7月12日	レスリング部救護⑦			
7月19日	レスリング部救護⑧			
7月26日	レスリング部救護⑨			
8月2日	レスリング部救護⑩			
未定	メディカルカップ事前			
未定	メディカルカップ①(サッカー)			
未定	メディカルカップ②(サッカー)			
11月1日	ぐんまマラソン事前練			
11月3日	ぐんまマラソン救護			
未定	メディカルカップ事前			
未定	メディカルカップ③(少年野球)			
2025/1/中旬	スキー救護			
随時	接骨院実習			
6月8日	球技大会	全員参加		球技大会に参加する
10月1日	体育祭	全員参加		体育祭に参加する
合計時数			63	

※各自選択した実習現場で実習を行う。
 ※取得すべき単位『63』を満たすように選択してください。
 ※接骨院の研修希望者は、直接梅山(貴)まで問い合わせください。